

企業アンケート分析

1-1 調査目的

本学の卒業生が就職している事業所に対してアンケート調査を実施し、企業等の卒業生に対する評価に及ぼす大学教育の効果を明らかにすることを目的とした。

1-2 実施時期

2021年11月1日～11月22日

1-3 調査対象

2017年以降に卒業した本学学生を採用している日本国内の企業339社

1-4 調査項目

- (1) 当該卒業生の全体の印象
- (2) 大卒人材を採用するあたり重視している能力
- (3) 今後本学に求める教育内容
- (4) 本学に対する意見・要望

1-5 調査票を各事業所に郵送、回収方法はFAX並びにE-mail

1-6 調査対象となった339事業所のうち85社より回答を得て、キャリア支援課にて集計・分析を行なった。

2-1 本学卒業生のイメージ

下記16個の能力について、本学卒業生を他学卒業生と比較しての評価と大卒人材を採用する際の重視度を「大いに優れている：5」、「やや優れている：4」、「変わらない：3」、「やや劣っている：2」、「劣っている：1」の5段階で回答するものである。

【本学卒業生の社会人基礎力】

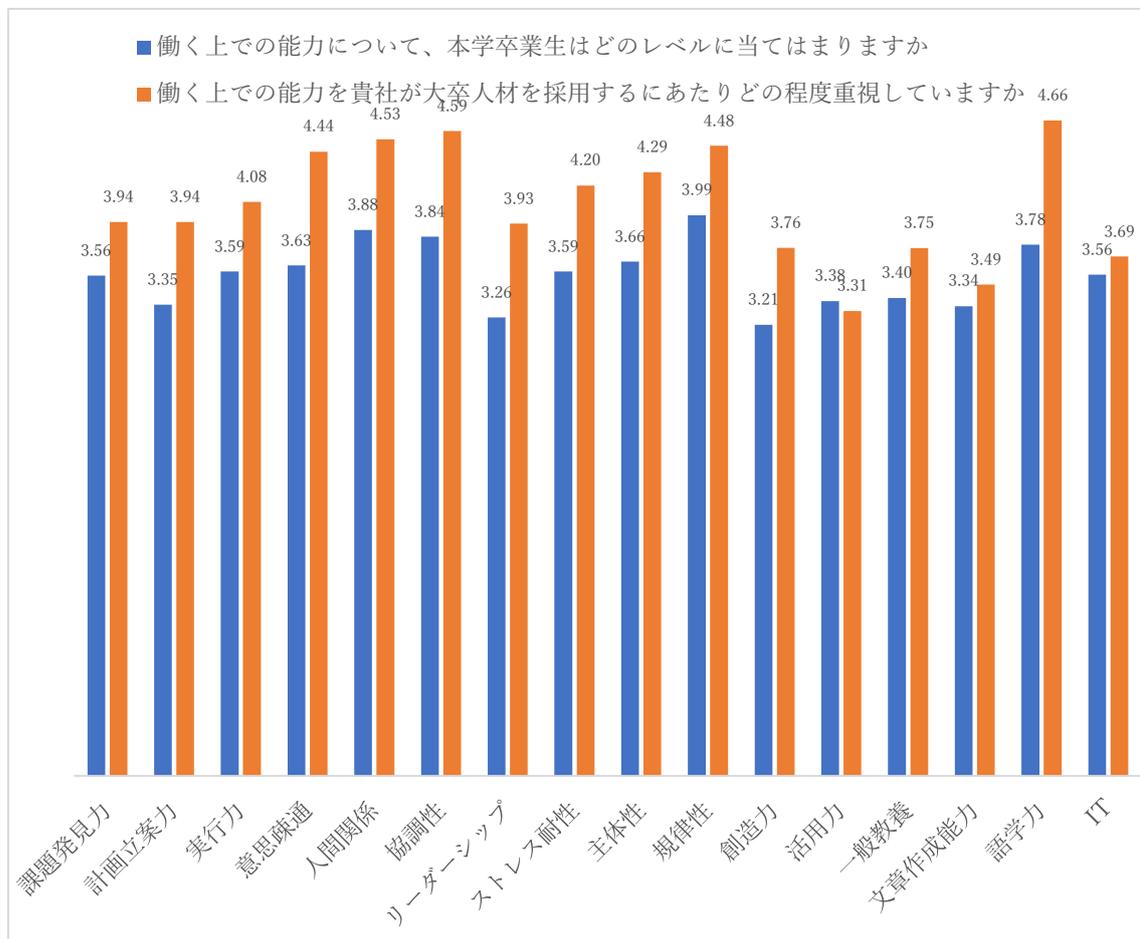
問：働く上での能力について、本学卒業生はどのレベルに当てはまりますか

【大卒人材を採用する際の重視度】

問：貴社が大卒人材を採用するあたりどの程度重視していますか。

【カテゴリ】

- ・情報の収集・分析による問題発見力 ・問題解決のための計画立案力
- ・計画を確実に実践する実行力 ・正確な意思疎通を図る力
- ・職場内外で円満な人間関係を築く力 ・チームの中で仕事を進める協調性
- ・他者を巻き込むリーダーシップ ・感情の起伏を制御できるストレス耐性
- ・自立して物事に取り組む主体性 ・社会・職場のルールを守る規律性
- ・新たなアイデアを生み出す創造力 ・大学で学んだ専門分野に関する知識の活用力
- ・その他の一般的教養 ・記録・資料・報告書等の文章作成能力
- ・外国語でのコミュニケーション力 ・コンピュータやインターネットを活用する力



企業へのアンケートにおいて、「働く上での能力について本学卒業生はどのレベルに当てはまりますか」の設問に対し、全ての項目の評価平均値が3.56であった。以下は企業等からの本学卒業生の評価が相対的に低い評価項目のうちリテラシーに関する評価が低いのは「文章作成能力」「一般教養」であり、コンピテンシーの一翼をなす「創造力」「リーダー

ーシップ」に対して昨年同様、同項目が低評価を受けた。

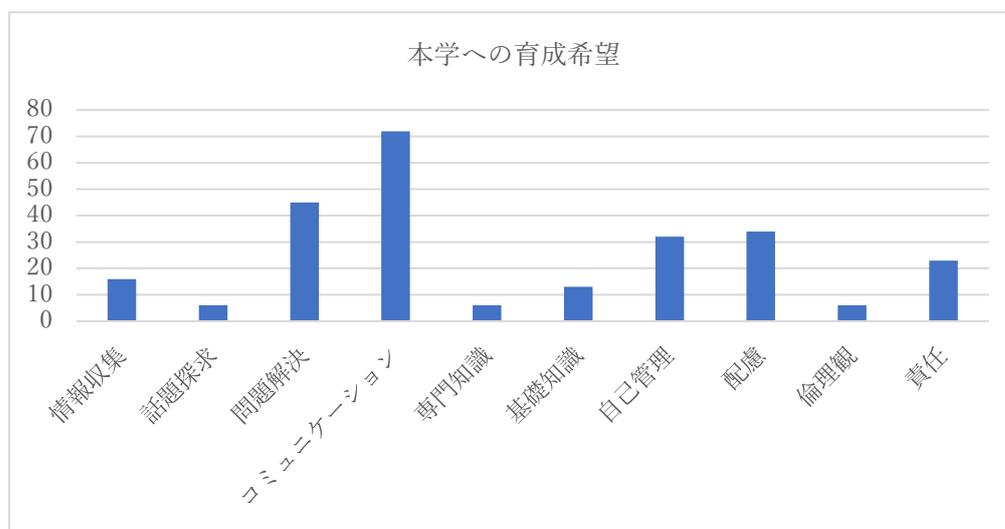
企業が「働く上でどのような能力を大学卒人材に重要視しているか」の設問において全ての項目の平均値は4.07である。企業等が相対的に最も重視しているのは「語学力」であり、「協調性」「人間関係」と続く。注目すべき点は昨年度調査に比べ、語学力を重要視しているところである。企業活動のグローバル化が進んでいって久しくなるが、各事業所の業務特性上外国語能力が必須と考えられ、今後さらに語学力の重要性が高まると考えられる。また、本学の外国語に特化した教務カリキュラムに対する期待度の表われであろう。本学の卒業生が外国語能力に対するニーズを満たしていくことが今後の本学のキャリア支援の目指すべきところであるならば、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語を専修する学生たちが、大学で培った外国語能力が社会の求める水準に達していることを証明するため、各種の語学資格の取得を更に推進していく必要がある。実際、学生が既に意欲的に語学資格の取得に取り組んでいる状況ではあるが、できる限り語学資格の取得を必須とすることが求められるものとする。

また、本学卒業生が低い評価を得た「文書作成能力」であるが、企業側が重視する項目としては低い数値となっはいるが、本学卒業生に対して、一定の物足りなさを感じていることの表れであろう。

【今後、本学に望まれる教育】

問：今後、本学の教育の中でどのような力の育成を望みますか。以下の項目より3つ選択してください。

- 1.情報収集力
- 2.課題探求力
- 3.問題解決力
- 4.外国語でのコミュニケーション力
- 5.専門知識技能
- 6.基礎的知識
- 7.自己管理能力
- 8.周囲へ配慮する力
- 9.倫理観
- 10.社会的責任の態度



いずれの意見も、今後の本学の教育の方向性を定める上で重要な項目を含んでいる。
今後、リテラシー、コンピテンシーの低評価項目をいかに大学教育において、育成して
いくかの整備作りが求められている。